

開拓の歴史と自然で繋ぐふるさとづくり (平成20年度認定)



南大東村は、沖縄本島の東方洋上約400kmにあり、大東諸島の最も大きな島で、南大東島の中央部には無数の点在する池や水路があり、蒸気機関車や軌道跡など開拓の歴史の足跡がうかがえる。

また、農業基盤整備事業においては、農地への冠水対策として池を結ぶ排水路整備や日本初の堀込み漁港の整備をした地域でもあり、貯水池等の整備なども今なお推進しているところである。

それらの施設を活用し、カヌー体験で自然の動植物等を観察したり、地域の子供達や観光客の憩いの場、交流の場として利用されている。

希少生物であるダイトウオオコウモリ、東海岸の植物群落、大池のヒルギなどの自然と、開拓の歴史文化を活用し、島まるごとミュージアム構想の実現をとおして、自然と共生し、島を愛し、人と自然が調和して共存する島をめざして交流に取り組んでいる。

